

# わんぱく

## 夏号



干瓢畑

※夕顔の実、かんぴょう(干瓢)は、茨城・栃木県などではふくべ(瓢)と呼ばれています。

# 民話を楽しくもっく

## 針ふくべ

再話・語り部 間中一代  
挿絵・佐々木 明

昔、むかしの話だ。

おっかさんと娘三人の家があったと。

ある年、田植え時だっていうのに、雨が少しも降らないで、田んぼに水が入ら

ないことがあったと。女所帯だから馬鹿にされて、水を取られてしまうので、おっかさんは、田んぼの畔にムシロを敷いて、すぎがあったら自分の田んぼに水を引こうと、夜通し見張っていたんだと。

そこへ、大きな男が現れて、

「田んぼに水を入れてやっから、三人の娘のうちどれか一人嫁にくれねえか」

と言ったと。おっかさんは、

「そうか、こんな時に水を引いてくれる甲斐性のある男だったら、喜んで嫁にくれるべ。何とか、うちの田んぼに水引いてくれな」

おっかさんは、よくよくと頼んで帰りがけると、男が後ろから言ったと、

「言はずれえこったけど、おれはただの人間じゃねえ」

おっかさんが驚いて振りかえると、男は大蛇に姿を変えていたんだと。

その晩、おっかさんは心配で心配で眠れねえんだと。





「田んぼに水がかかってねえでくれる」と思っているうちに夜が明けた。

一番鳥が鳴くとすぐに田んぼへ行ってみたと。この田んぼも乾ききっているのに、自分のうちの田んぼだけ、くろから水があふれるほどになっていたと。おっかさんは、これを見て途方に暮れたと。何も知らない娘たちは、「これで田植えができる」と大喜びしてんだと。おっかさんは、娘たち、「

「実はな、きのう、男が田んぼに水を引いてやっから、三人娘のうちどれか一人を嫁にくれろ、と言われて、水を引いてもらう約束してしまったんだが、その男は大蛇だったんだ。すまねえが、誰か蛇の嫁様になってくれねえか」と言ったと。

これを聞いた一番上の娘は、「いくらおれのこと追い出したいからって、蛇の嫁様になれたなんて正気で言ってるか。おらやだよ」とぷりぷりおこって断ったと。

二番目の娘は、「おら、どんな貧乏したって蛇の嫁様なんかやなこった。蛇の嫁様になるへらいだったら、死んだ方がましだ」と、ひどいけんまくだと。

一番下の娘は、

「おっかさんが約束したんじゃ、仕方ねえ。今年、米がとれなかったら、みんな死ねしかねえもの。死んだ気になりゃ蛇のとこへだって何だっで行ける。おっかさんと、姉ちゃんたちが米がとれて死なねえで済むだけでありがてえ。おらを大蛇の嫁ごにやっこれ」

と言ったと。これを聞いてみんな泣いたと。田植えが済むと、大蛇が男に姿を変えてやってきて、

「約束どおり、娘を嫁にもらいてえ。祝言をいつにすっか相談に来た」というので、祝言の日取りを決めたと。

祝言の日が近づくと、一番下の娘は、「おっかさん、おら、嫁入り道具は何にもいらねえ。ただ、長持ち一つ、ふくへを干、針を千本買っとこれ」と言ったと。

「ああ、わかった。いくらでも持たしてやっから」

おっかさんは、娘の言うとおり、長持ち一つ、ふくへを干、針を千本買ってきたと。

祝言の前日、大蛇は男に姿を変えてやってきて、

「おれは沼の主だ。明日は、沼のふちまで来てくろ、そうすればおれが迎えに出る」

と言って帰った。

祝言の日、おっかさんは、長持ちかつぎを二人たのんだと。頼まれた人たちは、

「めでたいことだから」

と、喜んで来たが、沼の主の大蛇のそこへ行くと聞くと、震え上がって足が進まねえんだと。おっかさんが、

「おらも、沼のそばまで送ってぐから、行ってくる」と歩き出すと、長持ちかつぎも、

「そんなら、せっかく頼まれたんだから」と、娘とおっかさんに付いて歩き出したと。

行くが、行くが、行って、沼に着いたと。長持ちかつぎは、沼のほとりに長持ちを下ろすと、後ろも見ないで逃げ返ってしまったと。

『うしろを振り返って沼の主を見ると、沼の中へ引き込まれる』

と昔から言われているからな。

沼の水が波立ち、水の中から大蛇が鎌首をもたげて姿をあらわした。

「ふく、おれのとこへ嫁に来てくれた。行くべ」

「待って下さい。まだ祝言がすんでねえ。

嫁入り道具のふくべを、沼にまくから、沈めてくる。ひとつでも沈められたら、

祝言が済んだことになっから」

娘はそう言うと、持ってきた千のふくべを、ガラガラ、ガラガラと沼にまいたと。

大蛇はふくべを沈めべえと思っても、沈めるそばからボンカラ、ボンカラ浮く。パッシャン、パッシャン沈めている隙に、娘は、針を刺したふくべをガラガラ、ガラガラまいたと。大蛇は、針が付かねえで、夢中でふくべを沈めようとしているうちに、針千本が体に突き刺さって死んでしまったと。

おっかさんと娘は無事に家に帰って、それからというもの田んぼの水に困ることも無くなり、幸せに暮らしたって話だ。

だから、ふくべは縁起がいいんだとさ。

めでたし、めでたし、おしまい。

出典「茨城の民話」日向野徳久編 未来社

